



# 月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番  
(公) 043(222)7207 番

96.10.7 No. 4477

## 全国へはばたこう!

# 物販担当者会議開催

一〇月三日、動力車会館において「九六年冬季労働千葉物販担当者会議」が開催され、全支部から代表者、物販担当者が集まり、九六年冬季物販の成功のための意志統一を行ってきた。

## 物販闘争も重要 曲面・全力で取 り組もう!

物販担当者会議では、まず冒頭、布施副委員長からのあいさつを受けた。

布施副委員長は「九月二十九日、三〇日の定期大会において向こう一年間の取り組みを決定した。当面、一二月ダイ改・来年三月ダイ改の攻防戦へと全力で立ち上がる。一二月ダイ改は、内房線のスピードアップや管内業務移管などの攻防、三月ダイ改は、貨物会社の基地統廃合との攻防となる。これまでの恒常的スト体制を生かし、強化していこう。」

また、一一・一〇労働者集會に全力で結集することを決定した。物販運動を行ってきた成果として、昨年の一〇月労働者集會があったが、いまの情勢に立ち向かえるものとして、一一月一〇日、再度日比谷野音へ結集していく。そのためにも、物販運動は重要だと考える。

国鉄労働運動をめぐる情勢で最大の問題は、国労が一〇四七名の清算事業団解雇者の「和解」に大きく動いている点だ。国労は、職場生産点で闘うという構え、また、JR体制の最大の矛盾

点であるJR総連との攻防戦に立ち向かう構えがない。高崎でJR総連から若い三名が国労へ一旦加入した。このような状況は、高崎だから起きた問題ではなく、全国にJR総連の危機が広がっている証拠だ。

和解といっても政府にお願いするとか、政府・JRが話に乗ってくれないから職場での闘いを押さえるということでは、和解の水準も下がってくる。そうした状況は、労働千葉の闘いにも大きく影響することは間違いない。

敵も必死だが、こちらも必死にならなければならない情勢である。共に頑張ろう!とあいさつした。

## 夏の実績を上回る オルグを展開 しよう!

つづいて白井協販部長より、物販闘争の具体的な方針が提起された。

白井部長は、「九六年夏の物販闘争は、不況にも関わらず実績として過去二番目、一〇年間物販を続けていてこれだけの水準を維持できるのも、労働千葉の闘いが注目を集めている結果だ。また、組合員のオルグ派遣以外にも独自で動いてくれる地区も増え、闘いは進んでいる。とした上で、「冬季物販は、一一・一〇労働者集會も含め、成功させようという息吹のなかで行われる。オルグ件数も過去最高となつている。支部への割り

振りも増やしたいへんだと思うが、本部も精一杯取り組む。ぜひ協力願いたい。」と訴えた。九六冬季物販は、六五〇〇万円売り上げ目標を掲げスタートした。一〇四七名の解雇撤回をめぐる闘いの重要曲面を見据え、全国一首都圏を席卷するオルグを貫徹しよう!

## 九月三〇日・全 国物販担当者会 議も開催される

労働千葉物販担当者会議に先立つ九月三〇日、全国物販担当者会議が開催された。

全国担当者会議は、全国の物販運動を支える方々が参加し、成功裡に打ちとられた。

会議は、委員長のあいさつ、協販部長の物販闘争の方針の提起を受け、全国担当者の報告を受けた。

全国担当者から出された意見は、

■ 交流センター会員全員が物販運動を取り組む体制が整ってきた。この体制で、夏はこれまでの売り上げを伸ばすことが出来た。冬はこの体制を生かし、さらに労働千葉支援の輪を拡大していきたい。

■ 以前に注文があり、注文が途絶えている組合をもう一度回り、とりこぼしのないよう取り組みたい。

■ 物販運動を通じて地域の労働組合との関係が深まってきた。物販と一一・一〇集會を結合し

て地域の運動を広げていきたい。夏季のオルグの反省に踏まえて、冬季につなげていきたい。などの意見が出され、目標六五〇〇万円をかちとるための各地区オルグ計画を集約し、冬季物販オルグの成功のために全力を傾けることを誓い合った。

冬季物販の成功をちかいかう



10・13 三里塚現地集會

とき 10月13日(日)

11時から

ところ 芝山町農田

集合 成田駅改札口

10時30分